



不妊検査

上限
5万円
※同年度内

■ 対象となる検査・治療

1回ごとの出産における不妊の原因検索を目的とした不妊治療開始日までの検査

■ 補助上限回数

年度内1回まで

一般不妊治療

全額

■ 対象となる検査・治療

保険適用の治療（タイミング療法、人工授精、薬物療法等）

■ 補助上限回数

上限なし

生殖補助医療

全額

■ 対象となる検査・治療

回数制限内の保険適用の治療

（採卵、採精（男性不妊治療）、体外受精、顕微授精、
受精卵・胚培養、胚凍結保存、胚移植等）

■ 補助上限回数

回数制限内分まで

+

生殖補助医療

上限
10万円
※1回の治療につき

■ 対象となる検査・治療

初回治療開始時の妻の年齢が40歳～43歳未満で、保険適用回数の上限3回に達したのち、妻の年齢が43歳未満で4回目以降自費で実施する生殖補助医療

■ 補助上限回数

通算2回まで

**令和8年度
拡充！**

先進医療

上限
10万円
※1回の治療につき

■ 対象となる検査・治療

先進医療として国から示されている不妊治療関連の技術（回数制限内の生殖補助医療と併用して実施されたもののみ）

■ 補助上限回数

年度内2回まで



申請期限にご注意を

- ・医療機関によって受診等証明書の発行に時間を要することがありますので、余裕を持って準備してください。
- ・申請には期限があります。期限を超える可能性がある場合は、事前にご相談ください。

! 補助を受けるには、年齢や住所などの条件があります。検査・治療等を考えている方は、事前に市公式ホームページを確認するか、電話でこども家庭センターにご相談ください。



◀市公式ホームページはこちら

申請の流れ

STEP1

市に事前に相談



申請書類のお渡しや補助条件の確認を行います。

STEP2

医療機関で
検査・治療



医師と相談しながら、治療を進めます。

STEP3

必要書類を
準備



診療明細書や必要書類をご用意ください。

STEP4

市へ申請



書類を提出し、申請手続きを行います。

Q どのような治療をして、いくらぐらいかかるの？

検査・治療内容は、状況に合ったものを行います。費用は、数万円から数十万円かかるものまでさまざまです。

区 分	内 容	1 回当たりの費用
不妊検査	妊娠を希望している人が不妊の原因を調べる検査	1 ～ 10 万円
一般不妊治療	検査で大きな問題がない人が始める、負担の少ない治療	1 ～ 3 万円
生殖補助医療	一般不妊治療で妊娠しない人、卵管や精子等に原因がある人、年齢等を考慮する必要のある人などが受ける治療	15 ～ 25 万円
先進医療	生殖補助医療を受ける人のうち、一定の条件を満たした人が併用する治療	3 ～ 15 万円

※費用は、申請者の実績を参照しています。

状況に応じて、検査や治療内容が異なります。



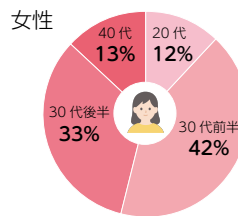
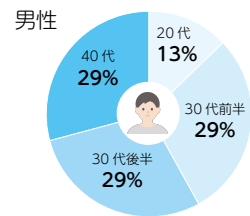
Q 補助金を申請した人は、どのくらいいるの？

男女ともに 30 代以降の割合が高くなっています。20 代から治療を始める夫婦もいて、若いうちから妊娠を希望して動いている方がいることがわかります。

令和 7 年度の補助実績

区 分	申請件数	申請額
不妊検査	13 件	655,720 円
一般不妊治療	10 件	571,130 円
生殖補助医療	19 件	1,718,153 円
先進医療	4 件	290,000 円
男性不妊治療	2 件	59,200 円

申請者の人数・割合



13 組から妊娠・出産の報告をいただきました！

Q どこに相談すればいいの？

検査・治療を考えている方、悩んでいる方は、こども家庭センターにご相談ください。

【問】こども家庭センター（保健センター内） ☎ 0291-32-8555

知っていますか？

プレコンセプションケア

プレは「～の前」、コンセプションは「受胎」という意味で「妊娠前の健康管理」という意味です。つまり「若い男女が将来のライフプランを考えて、生活や健康に向き合うこと」です。希望するライフプランをかなえるために、男女問わず、取り組むことが大切です。



▲国立成育医療研究センターのホームページはこちら



体重

適正体重を維持しましょう
男性の肥満も不妊のリスクを高める報告がありますので、注意しましょう。



運動

適度に運動をしましょう
運動は、体にもこころの状態にも良い影響があります。



栄養

バランスの取れた食事を
主食、主菜、副菜がそろった食事を 1 日 3 回食べましょう。



ストレス解消

ストレスをため込まないように
自分なりのストレス解消法を見つけておきましょう。



禁煙・アルコール

禁煙し、アルコールは控えめに
タバコは男女共に不妊症のリスクが増加し、妊娠中の飲酒は赤ちゃんに影響します。



感染症予防

性感染症に注意
不妊の原因になったり、子どもの将来へ影響を及ぼす可能性があります。